

平成31年度第1回渋川市総合教育会議 議事録

I 開催日時

平成31年4月16日（火）午前10時開会 午前11時45分閉会

II 開催場所

渋川市役所本庁舎3階大会議室

III 出席者

【構成員】高木勉市長、中沢守教育長、高橋秀和教育長職務代理者、
新井光久教育委員、高橋秀樹教育委員、狩野美喜子教育委員

【市長部局】藤川総務部長、石北総合政策部長、諸田福祉部長、
酒井スポーツ健康部長、西脇総務課長、角田財政課長、
齋藤地域包括ケア課長、中山こども課長、石北スポーツ課長、
儘田新政策課長、事務局職員3名

【教育委員会】町田教育部長、土屋教育総務課長、高橋学校教育課長、
田中学校給食課長、山田生涯学習課長、島田文化財保護課長、
担当職員2名

【傍聴者】 16名

IV 会議の概要



1 開会

新政策課長	皆さん、こんにちは。本日は、お忙しいところ、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。 定刻となりましたので、ただ今から、「平成31年度第1回渋川市総合教育会議」を開会いたします。 この会議の進行を務めさせていただきます、新政策課長の儘田と申します。よろしく願いいたします。
-------	--

2 市長あいさつ

新政策課長	それでは、開会にあたりまして、高木市長から、ご挨拶をお願いいたします。
高木市長	皆さん、おはようございます。 平成31年度第1回総合教育会議を開催いたしましたところ、教育委員の皆様には、お集まりいただきまして、ありがとうございます。 総合教育会議は、教育委員会制度の改革に伴って、市長部局と一体となって子どもの教育にあたっていくという趣旨でこの制度が出

高木市長	<p>来ました。出来て何年か経ちますけれども、市町村によっては形骸化してきていて形式的に年1回開くというようなところもありますけれども、渋川市は本当の意味で市長部局と教育委員会が一体となって渋川市の教育のために色々な議論をしていただいています。回数、質ともに充実した教育会議にしていきたいと思っておりますのでどうぞよろしく願いいたします。今日は「新年度予算」、「組織の見直し」、「公立幼稚園・保育所の認定こども園化」、そして「小規模特認校」など、これからの教育のあるべき形について議論していただきますので、よろしく願いいたします。</p>
------	---

3 教育委員長あいさつ

新政策課長	<p>ありがとうございました。 続きまして、教育委員会中沢教育長より、ご挨拶をお願いいたします。</p>
中沢教育長	<p>皆さん、おはようございます。 市長さんをお迎えし、この総合教育会議が今年度も第1回目が開かれますことを心よりお礼申し上げます。今、市長さんが仰いましたように、教育委員会部局と市長部局との間で教育に関して議論ができるという非常に中身のある会議が出来ることを嬉しく思います。教育委員会だけで考えていることについて市長部局の中で分かっていたり理解を深めたり、あるいは逆に、市長部局で考えていることを教育委員会部局の中で理解を深めていく。そして、その議論の末にいい方向性で一緒になって市民のために、学校のために、教育のために方針がでる。そういう議論をしていきたいと思っております。 今日は特に、「認定こども園」「小規模特認校」という少子化の中での学校、保育園、幼稚園のあり方について議論が深められたらいいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。</p>

4 議 題

新政策課長	<p>ありがとうございました。 ここで、本日の資料の確認をさせていただきたいと思っております。 まず、平成31年度第1回渋川市総合教育会議次第、出席者名簿、当会議の設置要綱、資料No.1「平成31年度渋川市予算概要」、資料No.2「公立幼稚園・保育所の認定こども園化について」、資料No.3-1「小規模特認校について」、資料No.3-2「渋川市立小学校小規模特認校の就学等に関する要綱(案)」、資料No.3-3「小規模特認校パンフレットイメージ(案)」、以上の資料を配付しております。資料の不足がございましたら、お申し出頂けたらと思います。</p>
新政策課長	<p>なお、本日の会議を傍聴したいとの申請が16名の方からございました。 本日の会議は公開の会議でありますので、これを認めることについて、ご異議はございませんでしょうか。</p>

出席者	はい。
新政策課長	<p>ありがとうございます。異議なしとのことですので、傍聴することを認めさせていただきます。</p> <p>それでは、傍聴を希望する方に、ご入室いただきます。</p> <p>【 傍聴者入室 】</p>
新政策課長	<p>それでは、議題に移らせていただきます。</p> <p>渋川市総合教育会議設置要綱第4条第1項の規定により、「市長は、会議の議長となる。」とされておりますので、この後の進行につきましては、高木市長にお願いいたします。</p> <p>なお、会議録を作成する都合上、発言をされる方は、氏名をおっしゃってから、発言されますようお願いいたします。</p> <p>では、この後の進行につきましては、高木市長にお願いいたします。</p> <p>よろしくようお願いいたします。</p>
高木市長	<p>それでは規定によりまして、しばらくの間、議長を務めさせていただきます。よろしくようお願いいたします。</p> <p>今日は沢山の傍聴の皆さんにも来て頂きまして、渋川市の教育について議論を聞いて頂ければと思います。どうぞ、よろしくお願いいたします。</p>
<p>(1) 新年度予算について</p> <p>(2) 新年度組織機構の見直しについて</p>	
高木市長	<p>議題(1)「新年度予算について」と議題(2)「組織機構の見直しについて」を一括して報告させていただきます。総務部から説明をお願いします。</p> <p>●【総務部長説明】 【資料No.1】</p>
高木市長	<p>報告事項が終わりました。</p> <p>ここで、本日は傍聴の方もおられますので、資料を傍聴者に配布をしてはいかがかと思いますが、いかがでしょうか。</p> <p>よろしいでしょうか。</p>
出席者	はい。
高木市長	<p>では、傍聴者に資料を配付させますので、暫時休憩といたします。</p> <p>●【資料配付】</p>
高木市長	<p>それでは、会議を再開いたします。傍聴者の皆さんは資料をご覧の上、傍聴していただきたいと思っております。</p>

高木市長	<p>ただ今の報告案件ですが、このことについてご意見がありましたらお願いいたします。</p> <p>よろしいでしょうか。</p>
<p>(3) 公立幼稚園・保育所の認定こども園化について</p>	
高木市長	<p>無いようですので議題(3)「公立幼稚園・保育所の認定こども園化」に入ります。福祉部から説明をお願いします。</p> <p style="text-align: center;">●【福祉部長説明】 【資料No.2】</p>
高木市長	<p>説明が終わりました。</p> <p>これについて、ご質問、ご意見等ございましたらお願い致します。</p>
高橋教育長 職務代理者	<p>いくつか質問と意見があるのですが、認定こども園への需要といますか、実際に市民の方に話しを聞いたりアンケートを取ったりして、どのくらい需要があるのかということと、資料の中に1～3号認定とありますが、認定ということはそちらで認めるのだと思いますが、保護者で特に仕事はしていないけれども保育所などに預かって欲しいという方は1号認定にしかならないのか、そうすると親が希望しようがしまいが働いている状況で1～3号に認定される訳ですよね。だとすると、今は幼稚園には同じ状況の子どもが集まっているし、保育所にも同じ状況の子どもが集まっていますが、一緒に活動する場合に幼稚園は教材費などを取っていたり給食費の関係も色々あると思いますし、一方で保育所は取っていない。その辺りを統一しないといけないのですが、もう少し具体的になっているのかいないのかを教えてくださいと思います。</p>
福祉部長	<p>先ほどのニーズ調査ですけれども、具体的に何人という調査はまだ実施していないところですが、色々な市民からのご意見としましてそういった要望があるということは認識しています。</p> <p>認定につきましては、1号認定は従来の幼稚園ということで希望すれば入園が出来ますが、2号、3号についてはやはり保育が必要な方ということで、両親が働いているとか、諸事情によりましてご家庭でみられないという方が2号、3号というところであります。</p> <p>また、認定こども園化した後のそういった統一すべきところではありますが、検討をまだしていないところでもあります。実際に進める中で、給食費の問題とか幼稚園と保育所の課題などもありますので、これから確認していかなければならないと考えております。</p>
高木市長	<p>この会議は、ここで決定して進めますという場所ではありませんので、色々ご意見を伺って今度の参考にさせて頂きたいと思います。他にご意見がありましたらお願いします。</p>

新井委員	<p>資料を先ほど確認させていただきました。</p> <p>3 ページの上の所に「保育所・幼稚園適正配置検討委員会」とうたっておりますけれども、これはどういったメンバーが所属するのかということをお聞きしたいのと、どのくらいの頻度でやっているのか。また、やるにあたって、地元の方々の意見というのは非常に大事だと思いますので、是非その要素を取り入れた検討委員会にして頂ければとも思いますが、先ほど申し上げたどのメンバーでどのくらいの頻度なのかをお聞かせ願いたいと思います。</p>
こども課長	<p>適正配置検討委員会ですが、委員につきましては庁内の9名の委員で構成されています。具体的に申し上げますと、福祉部長、教育部長、財政課長、新政策課長、こども課長、保育所所長会会長、教育総務課長、学校教育課長、幼稚園園長会会長というメンバーでございます。</p> <p>検討会の頻度ですが、平成28年度、29年度につきましてはそれぞれ3回ずつ検討委員会が開催されました。平成30年度につきましては、開催されていませんけれども平均的には3回程度の開催でございます。</p>
新井委員	<p>地元の方、地域のPTAの役員をやっている方ですとか、幼稚園、保育園に子どもを通わせているお母さん、お父さんといった人たちの意見も是非聞いていただいて反映していただきたいと思ひますし、検討委員会で行った内容を誰もが知ることが出来るような周知の仕方をしていただけたら有り難いと思ひますので、子どもの教育環境を守るためにも是非よろしくお願ひしたいと思ひます。</p>
高橋委員	<p>先ほど1号議案の中で31年度の当初予算ということで新規或いは拡充された事業として26事業が挙がっていたのですが、教育、子育てに関する事業も非常に多く入ってしまひて非常に心強いと思ひております。ただ、今議題になっております認定こども園化ということについては、この事業の中ではまだ触れられていないのかなと感じました。</p> <p>学校教育もそうですが、特に保育園、幼稚園は子育ての一部だと思うのですが、その学校や保育園、幼稚園の教育内容といいますか、お預かりしているときの内容といいますか、そういったものに関する価値を充実させていくことが1つあると思うのですが、それと同時に親御さんからしますと子どもが幼稚園や保育園に通っているのは生活の一部だと思うのです。ですから、これがやりにくいという事になりますと、生活そのものがしにくいという事に繋がって来ると思ひます。特に今ここで取り上げられているのは、公立幼稚園については認定こども園への移行ニーズが高まっているという現状の情勢分析は出ているのですが、これからこの移行について具体的にアクションが取られていくのか、或いは保育園と幼稚園というのは管轄も違ひますし内容も違ひということ、なかなか一緒にしにくい部分もあるかと思ひますが、親御さんのニーズが子どもを預けて共働きといいますかそういった方が増えていらっしゃる、ほとん</p>

高橋委員	<p>どそういう状態だと思うのです。ですから、その辺を踏まえて、もし一緒にするのであれば例えば人的な問題もありますし、財政的な問題もありますし、あるいは条件もこのように変わって来ますよと我々にも分かり易く書き出していただければ大変ありがたいと思います。それによってこれを推進していくのかどうか、市のスタンスが決まってくると思いますので、その辺りをもう少し明らかにしていただければと思います。</p>
福祉部長	<p>ご指摘いただいたとおりまだ検討途中でして、今後メリット、デメリット、課題等を整理して調べながら、また皆様にご意見を頂戴しながら進めてまいりたいと思います。</p>
狩野委員	<p>先ほどの提案の中でニーズの問題が出ていたのですが、いただいた資料の中でやはり幼稚園の園児の減少というのがものすごくあってですね、今は約半分ですかね入所率。そういった中で私立の幼稚園が3件、半田、白ばら、大島幼稚園という所ではこども園にして入所率が過去に比べて上がっています。今、働くお母さんが増えている中では、数字的にみてもニーズがあるのだらうと思いますので、そういった方向に行くことに関しては私は進めて欲しいと感じています。</p> <p>ただ、28年、29年に既に検討委員会が行われていて、30年度はされていないということですが、その2年の検討委員会の中で具体的な方向性とか、こういう方向に持っていこうというプランがどの程度なされてるのかをお聞かせいただきたいのと、課題として挙がっている事や見通しをお聞かせいただければと思います。</p>
こども課長	<p>検討委員会につきましては、公立保育所ですと第四保育所、第五保育所のところで検討されました。方向性を検討していた途中段階であります。平成30年度につきましては本市の第2子以降保育料無料化の開始の年であったことや、国の制度の保育料無償化が10月から実施されることに伴って需要増となるのではという見込みがあったことから、検討委員会としては28、29年度で検討してきた内容と方向性が変わってくるのではないかとということで30年度は開催を見送ったという経緯があります。国の制度につきましてもその時点でまだ制度の詳細が定まっておらず、具体的な検討が難しかったというところです。</p>
高橋教育長 職務代理者	<p>これは意見なのですが、幼稚園と保育園はしている内容が似ているところもあるが保育と教育で違うと思うのですが、幼稚園をみているとだいたい2時過ぎになると子どもを帰します。預かりもあるがその場合は預かりの先生がついてくれます。幼稚園の場合は帰した後は教材研究だとか、次の日の準備だとか、その日のまとめだとか先生方はして、結構忙しそうにしています。保育所の方はこどもがずっといるので先生方はその後に準備をしなければならないので大変なのだと思うのです。それが一緒になった場合にどうなるのが心配ですし、片方は教材費を取っていて、もう片方は取っていない</p>

高橋教育長 職務代理者	<p>いことで同じようなサービス、対応が出来るのかということ、今後良い方向に持っていけるように詰めて行くようお願いいたします。</p> <p>それから、認定こども園の場合は、子育て支援の機能が強調されていくと思うのですが、置くように努める職員として色々たくさん名前が出ています。是非、その点は置ける職員は置いてもらって、良いサービス、対応が出来るようにこれから計画を立てて欲しいと思います。</p> <p>前回の行政センターと公民館を一緒にするという時もお話したのですが、そこで働く人や保護者などの意見をよく聞いて話しを進めて欲しいということ、実際にそれをしているところへ見学に行ってみて様子を見て、こういうところは気をつけなければならないところを把握して、是非ともしっかりと準備をしてもらえればと思います。</p> <p>あと、幼稚園、保育所は今後も残るので、認定こども園のことばかりではなく、今残っているところにも子どもは沢山いるので、手を抜くということはないと思いますが、更にそちらの方も充実させるように両方に気を配りながら取り組んでいただければありがたいと思いますので、よろしく願いいたします。</p>
高木市長	<p>ご意見をいただきました。まだ、こういうことで決定して進めますということではありませんので、進めるということになれば色々準備をしなければいけないと思っております。教育委員の皆さんにも色々なご意見をいただきたいと思っております。</p>
中沢教育長	<p>認定こども園についての福祉部からの資料を読ませていただきました。こども園への移行が推奨されていること、ニーズが高まっていること、渋川市では適正配置検討委員会において検討していること、そして何よりも、そのニーズの根拠として渋川市内の保育所ではほぼ定員を超えている、最も多いところでは120%の保育園があり、もうギュウギュウに入っている訳です。それに対して、公立の渋川幼稚園の今年の入園者は12人です。充足率は95人定員のところ53人で55%。それから、赤城幼稚園につきましても入園者は41人、75人定員ですので54%。かに石幼稚園に至っては、今年の入園者は1人。こういう状況であります。幼稚園教育の大事さだとか価値だとか、そういうものもありますし、保育所の価値だとか、そういうものもあるのですが、今現状こういう数を見ていると、市民のニーズはどこにあるかというのは、これはもう数字で明らかだと思えます。このような中で、かに石幼稚園が入園者1人。しかもこの1名は地元の人ではなく、働きに来ている人の子であるということです。このまま、検討検討で放置していったら、このかに石幼稚園という住民からの存続要望が非常に強い幼稚園がどうなってしまうのか、この辺りの対策を打たなければならないと思えます。</p> <p>他の渋川幼稚園にしても赤城幼稚園にしても、11～12名という現状があるということです。検討委員会は昨年は開きませんでしたということですが、これは喫緊の課題ではないかと思うのです。</p>

中沢教育長 あれだけの施設を持った渋川の公立幼稚園が50%を切っているような充足率の中で、このままではなく何かしらの対策が必要であります。

こども園化するにあたり、免許保有或いは免許取得が猶予されている、あと数年ですよね。あと数年の間に結論を出してあげないと働く職員にしても免許が取れなくなってしまうということがあると思います。保育士の免許と幼稚園免許を両方持たなければならないこども園について、片方の免許の人について猶予期間があと3年か4年あります。その期間に取れるように渋川市としても方針を出してやらないと働く保育士さんの確保も出来なくなってしまうと思うのです。

市内にある私立の幼稚園も全てこども園化となり、保育所がほぼ満杯状態の中で公立も私立に影響を及ぼさない段階にもう来ていると思います。あれだけの施設と市民要望の高いこども園化について、早急に結論を出して方向性を出していかないと。また、高橋委員からもこども園化するに対しては様々な課題があると、熟考して検討しなければならない課題も多いということなので、これはすぐにでも検討を始めて、その課題をクリアして、そしてこども園化を図るという方向が私は望ましいと思うのですが、この資料を見た限りこども園化にするのかしないのか市の方針としては全く見えてこない。ニーズはあるがどうするのかというところで立ち止まっているようにしか見えないのですけれども、この辺りは今後の方向性として今年どうしますというところが聞けるといいと思うのですが、言えますか。

高木市長 それぞれの委員さんに色々ご意見を伺いましてありがとうございます。早急な課題だというご意見、そして慎重に検討すべきであるというご意見の両方あると思います。私もこの認定こども園制度が出来た時、10数年前だったでしょうか、その関係している県の方で部長をしたことがあります。一方は厚生労働省の管轄の保育園、そして文部科学省の所管の幼稚園ということで、そもそもの生い立ちが違いますので目的も違ったと思います。ただ、子ども達を地域で育てるということは全く同じ共通点がありますので、両方が補完をして認定こども園という制度が誕生しました。ただ、なかなか当初はそういったことに対して理解が浸透しなくて、認定こども園制度が出来ましたけれども実際に移行する施設はほとんどなかった時期が長く続きました。最近になって子どもを育てる環境も変わってきましたし、幼稚園、保育園それぞれの関係者の理解も進んできて、認定こども園化する施設が増えているのが現状だと思います。

こども園化した施設に行ってみますと、こども園化して良かった、色々な支援もあるし環境も整えられる、スタッフの充足も出来、国県市の援助もあると肯定的で評価する意見が多い気がします。そういったことを受けて、渋川市としても地域の親御さんや子ども達のために、課題があるとすれば課題を解決してそういう方向に進めていければと思っています。特に小野上ですね、子どもが1人しか入園しないということです。それぞれの地域で子どもの少ない所もあ

高木市長	<p>りますけれども、地域で子どもを育てることが大事だと思いますので、地域の活性化という面と子どもを育てる教育環境の充実と両面から積極的に取り組んで行きたいと思っています。</p> <p>今日は決定する場ではありませんので、どちらかという入り口だと思います。色々な意見を聞いて、教育委員会サイド、そして市長部局サイドがそれぞれ持っている考え方を持ち寄って議論して、そして渋川市全体としての方向を取りまとめていきたいと思っています。</p>
高木市長	<p>よろしいでしょうか。それでは、公立幼稚園・保育所の認定こども園化についての議題は以上で終了させていただきます。</p>
<p>(4) 小規模特認校について</p>	
高木市長	<p>続きまして、議題(4)「小規模特認校について」に入ります。教育部から説明をお願いします。</p> <p>●【教育部長 説明】 【資料No.3-1、3-2、3-3】</p>
高木市長	<p>教育部の説明が終わりました。</p> <p>小規模特認校についてのスケジュール、要綱(案)という細かい話しもありましたけど、まず小規模特認校というものを理解しないといけませんし、渋川市にとって必要があるかどうか、そういうことが大事だと思います。</p> <p>小規模特認校という制度があります。渋川市においても小規模な学校が出てきております。学校の統廃合ということも今まで進めてきておりますし、まだそれが課題となっているところもあります。そういう中であって、小規模特認制度というものを活用したらどうかというご意見だと思います。ただ単に数合わせで子どもを増やしていけばいいという訳ではないと思いますので、小規模特認校制度の特色を、それぞれの学校の教育の特色を持たせて、親御さん自身で子どもを通わせる学校を選べるということも1つの選択肢ではないかと思います。そういう観点から、この小規模特認校制度について今日の議題として取り上げさせていただきました。ご意見等がありましたらお願いいたします。</p>
高橋教育長 職務代理者	<p>基本的には自分の近くに学校があるということはいいことだと思います。ちょっと小さくなって大変だし、もう既に合併統合している学校もあるのですが、基本的には近くにあるといいと思います。</p> <p>資料3-1の2頁のスケジュールのところですが、広報・ホームページによる周知が10月で募集が1月、希望者の審査・許可が2月ということなのですが、今まで子ども達が学区外から来るとか色々なことを考えたときに、体が弱いので人数の少ない所できめ細やかに見てもらいたいとか、もしかして人間関係があって他の地域から転校してくるとか色々な状況があると思います。前向きに移りたいというのものもあるかもしれないし、そうではなくて身体的な病気だとか障害とかもある子もいるかもしれないし、きめ細やかに見ても</p>

高橋教育長 職務代理者	<p>らいたいと希望した場合に、施設・設備の準備とか教職員の準備とかがこの流れで間に合うのかどうか。予算を付けるにしても、結構前から予算請求して議会を通さないと付かないと思うので、急にこれだけ必要になったとか、ここを改修しなければならないとかが出てきたときに大変かなと思うので、今年度のスケジュールはこれで行くのかなと思うのですが、出来るだけ多くの人に周知徹底して、もし事前に希望の状況が分かれば相談するとか、そうするとこちらの対応も出来ると思うので、その辺はうまく進めた方がスムーズに行くのではないかと思いますので、よろしくをお願いします。</p>
教育総務 課長	<p>スケジュールにつきましては、ある程度を目安となっております。今頂いた意見等を加味いたしまして、今年度は導入の年でもありますのでゆとりを持ってスケジュールを組んだところといたしますか、これだけあればというところもあったものですから、早められるものにつきましては早めてやって進めて行きたいと考えております。また、導入された来年以降につきましては、もっと早くといった形で検討していきたいと考えております。</p>
学校教育 課長	<p>教職員のことというお話がありました。今年度のスケジュールになりますと、児童数が増えることによって教職員の増員が必要となった時には、「補正」という形を取らせていただきたいと思っております。ただ、やはり教職員の人事については12月1日の調査のところ、ある程度は児童数がわかった方が早めの教職員の配置対応等が出来ますので、このスケジュールについては先ほど総務課長から話しがあったとおり、時期を見計らって早めの対応の方がいいと考えております。</p>
高木市長	<p>くり返しになりますけれども、小規模特認校をやりますと決まったわけではありませんので、スケジュールの議論をする前に高橋職務代理者には小規模特認校というのは評価するかしないか、そういうご意見を伺えればと思います。</p>
高橋教育長 職務代理者	<p>選択肢が増えるという意味では私はいいのではないかと思います。準備が大変だろうなというのが心の中によぎりましたのでお話ししました。</p> <p>やはり、子どもが生き生きと生活して成長できることが大切だと思いますので、それを大切にやってもらえれば。ただ、お金のことですとか色々かかってくると思うので、それは相談になるかと思っております。</p>
高木市長	<p>選択肢が増えるということで、小規模特認校制度について渋川市でも導入することについて積極的だという意見でよろしいですか。</p>
高橋教育長 職務代理者	<p>はい。</p>

狩野委員

私は赤城に住んでいるので、実は赤城は統廃合で小学校が1つになるということが2か所の地域であり、大分議論されました。その中でいつも感じるのは学校というのは地域にとってその地域の未来を希望するような要素を持った施設であることを実感しました。統廃合で学校が無くなるとやはり寂しいのです。そういった中で、実際に100名を切る2校、伊香保小学校と小野上小学校が小規模特認校という形で渋川市の中に学校として地域に残るのなら、私は積極的にこういった制度を導入していただければと思いました。ただ、資料3-2の第2条のところに、「この要綱において「小規模特認校」とは、特色ある教育活動を行う小規模な小学校であって」ということで、ここの「特色ある教育活動を行う」という文章がとても大事だと思います。「この要綱において「小規模特認校」とは、小規模な小学校であって」となってしまうと、小さい学校だからするということになってしまうのですが、「特色ある教育活動を行う小規模な小学校」ということで、残る学校においてもこの特色ある教育活動というのを前面に出せるような運営が望ましいのではないかと思いますので、特認校になった暁にはここはとても大切にしていきたいと思いました。

それから、メリットは沢山あった中で特にデメリットのところでも気になったところが保護者の方から見てのところなのですが、「通学区域が広範囲になるため、児童生徒に通学の負担が発生する」とあり、これは確かにデメリットとしてあるので、この辺りは課題として検討しながら何か少しでも改善することが出来るのであれば考慮していただきたいのと、「自分の住んでいる地域での友人関係が希薄になる」という点で、校区外から通学するということですので、この辺りもデメリットの中で少し意識して学校の中でも気遣いしていただければと思います。

それからもう一つ、指導面のことなのですが少人数ということですので教員の数も少なくなるところで、教員の特性より指導方法の発展や深まりが難しくなる部分があるとよく言われますが、その辺りも指導のところでは教職員の皆さんの意識と、それから専門性の高い教員が少ない、人数が少なくなることから、経験の少ない教職員に対する研修が深まりにくくなるのではということが課題としてあげられているようですので、この辺りは配慮していただくなかで教職員についてもよろしく願いいたします。

教育総務課長

先ほどいただきましたデメリットの部分等でありました通学区域が広範囲になるという部分ですが、仮に児童が鉄道を利用した場合には、小野上駅から小学校までは距離が約1.8kmありますので、スクールバス等が使えるかどうかというところも手当てしていかなければと考えております。

学校教育課長

先ほど、特色ある教育活動とありました。学習指導要領の枠内で、学校の地域素材とかそういったものを活かした教育活動の展開が望まれます。渋川の小中学校を見ても、非常に地域の特色を活かした教育課程を編成している学校があると思います。特認校にお

学校教育
課長

いてもそのようなものを十分に意識しながら進めて行く必要があると思います。

それから、先ほどの教員のことですけれども、確かに学年内に複数学級ある学校では教科担任制といった形で中学校の教科の免許を持っている先生を割り振り教えている小学校があります。ただ、小学校の免許を持っていますので教える資格がありますが、それぞれで更に研修等を深めていく必要があると思います。また、教科担任制というのは学年内だけではなく学年の壁を越えて他学年まで含めたり、教務主任を活用したりして教えることこともできます。また、どこまで出来るかわからないですが、教職員の配置等についても配慮すべきところは、公平性を保ちながら考えていければと思います。

中沢教育長

小規模特認校について提案させていただいていますけれども、これは市内の総合教育会議の中での提案ですので、この資料についても要綱についてもまだまだこれから練っていく案の案ですので、傍聴人の方にも配られているようですが、スケジュールとかその辺りについても仮の案ですのでご承知置き頂ければと思います。

私は、学校というのは地域の皆さんのものかなと思っているところがあります。再編統合にしても地域の意見を最重要視しなければいけないと思います。この小規模特認校の提案についても、地元の方との今後の話し合いとか説明とかの中で意見を十分聞き取りながら、その意に添ったものを進めて行こうと思います。

小規模特認校というのはもう既にほぼご案内のようですけれども、通学区を撤廃して小野上小学校でしたら、市内に居住するお子さんであれば誰でも望めば行けますよという制度になると思います。望めばということころは、小野上小学校の良さを理解してくれるという事になると思います。小野上小学校の良さというのは、私は実は沢山あると思うのです。日本一のものもあれば、渋川市内一のものもあれば様々あると思うのです。自然豊かなところで、日本一川に近い学校ですとか、日本一せせらぎが良く聞こえる学校、一人あたりの予算額ですとかは圧倒的です。それから、先生一人あたりの子ども数。今、小学校は少人数指導といわれているところですが、まさに少人数指導が居ながらにして出来ていると思います。メリット、デメリットがそれぞれあるところですが、その小野上小学校の良さにいいなと思ってくれる人がいたとすれば、それは区域外就学ですとかそういうことをしなくても行けるようにしてあげられるという制度です。小野上小学校にしてみれば、今、複式になっていたり複式が見込まれる学年に対して、一人でも二人でも入ってきてくれば、賑わいも醸し出すし、学校には転校生がいるというのは大きな出来事ですので、そういうことが出来るようになるという事だと思うのです。小野上にお住まいの方は、小野上小の良さというのは十分知っているかもしれませんが、端から見るともっとここはすごい学校だなと思う、新たに感激する場面も私も訪問してありました。是非、そういうことをアピールして、大規模のなかでちょっと疲れてしまったですとか、こっちの方が肌に合うなという子がいれば、そういう子がいるのもいいのではないかと思います。

中沢教育長

小野上小学校が今後、人口減の中で更に少なくなっていってしまつて、入学数がゼロになるとすればこれはもうやむを得ないかなと思うのですが、地元の学校が地元の人に愛され存続を願われているとすれば、制度上のことで出来ることは全てしてあげたいと思うのです。出来るだけ地域に小学校を残していきたい、そのために出来る制度として見つけ出したこの小規模特認校というのがあるのなら、やっていいのではないかと思います。私はこれをしたから生徒が倍増するなどとは思っていません。でも、一人でも二人でもこの小野上小の良さを理解して入ってきてくれる人がいれば、それはその人の幸せにもなるし、小野上小にとっても地域にとってもいいことかなと、そのために検討できることは検討していきたいという意見を申し上げて、今後、庁議だとか地域の皆様の意見を聞きながらこれを進めて行きたいということです。決まってこれをやりますという訳では無くて、そういう気持ちを理解していただきながら小規模学校の存続、地域の学校の大切さを理解していきたいと思います。このチラシも作りしましたが、小野上小の良さというのはお祭りも子ども達がいなくて成り立たないくらいな、もっとアピールすべきものが上手に書けるかなと思っていますが、急遽作っていただいたものなのでこのような状況になっていますが、この辺りのアピールも上手にしていきながら小野上小の良さを発揮できるといいかなと思います。

渋川において小規模特認校というのは今、伊香保と小野上を挙げていますけれども、複式学級あるいはそれが直近に見込まれるところというふうにしていいのではないかと私たちは考えております。

高木市長

他にご意見はございませんか。

高橋委員

今、お話しを聞かせていただいて伊香保小学校という名前が出ておりますので、私は地元でございますのでかなり私情を交えての感想意見になりますがお許しを頂きたいと思います。

先ほど、職務代理も教育長も言われたように、やはり学校というのは地域の要というか自分の町に学校があるということは本当に有り難いことで、もし反対に伊香保から小学校、中学校が無くなってしまったらどうなってしまうのかなと、非常に寂しいというか物足りないというかそういった感じになってしまうと思うのです。ただ、少子高齢化の中で児童生徒の数がどんどん減っているのは現実でありますし、今回、この小規模特認校という制度を初めて聞いたのですが、もしこれが門戸を開放されてどんどん来てくださいますということは有り難いことだと思います。ただ、もちろんこれで伊香保の小学校に入学者がどんどん増えるなどと甘い考えは持っておりませんが、先ほど学校教育課長が言われたように地域の売りというか特徴、地域素材というものを掘り起こして学校をアピールしていくということも必要なのではないかと感じました。伊香保は特殊な地域でどんどん人口が減っています。子どもも減っています。ただ、年間に100万人の方がお越しを頂いている訳です。そういう非常に特異な地域なんだと思います。100万人来なければ旅館が建っ

高橋委員

ているだけの町になってしまいますので、そういう意味では他の地域とまた違った感覚があるのかなと思っています。

もう一つ、伊香保は今回、令和ということで非常に注目を浴びましたが、万葉集から元号が定められたということで伊香保も歴史という点では万葉集に伊香保という名前が数首詠われている訳です。また、戦国時代は石段街が武田信玄の隠し湯などと言われ、日本で初めての都市計画だと謳っておりますけれども、石段街が造られました。それから明治に入りますと、文人墨客が多数訪れていただいて不如帰という小説の材料にもなりましたし、ハワイ公使の別邸もありますし、それから皇室縁の御用邸もありますということで、今、渋川市では偉人の顕彰などをして歴史をもう一度振り返ってみよう、郷土の誇りを取り返してみようということで盛んに市長を中心にやられておりますけれども、そういった点でもやはり伊香保は奈良時代、古代から名前が出ている地名なのだと、渋川市にとっても観光という重要な柱を担っているということがありますので、その辺りも子ども達によく知ってもらえればと感じております。

伊香保町をきれいにする会ということで地元の方がやられておりますけれども、きれいにするということは観光客をおもてなしするという精神を子ども達にもわかってもらいたいという趣旨も入っているのです。それが伊香保の特徴なんだと思います。観光で食べさせていただいている、その地域が成り立っているということを謳っていけばいいのかなと感じました。

先ほど、小野上の小学校も出たのですが、私も小野上小学校に学校訪問させていただいて大変校舎が素晴らしいのです。中がふんだんに木が使われておりまして、非常にスペースも、ここにゆとりある多目的スペースなど書いてありますけれども、他の学校には無いような設備的にも優れたところを持っているので、これを無くしてしまうのは非常に残念なことで、市の財産ですから、この辺りももう一度見返していただきたいと感じました。

ですから、この制度をもし推進していただければ有り難いと感じております。

高木市長

他にご意見はございませんか。

小規模特認校については、初めてこの総合教育会議にテーマとして出てまいりました。私は教育内容については承知しておりませんが、やはり特色のある教育というのが1つのポイントかなという気がします。大きければいいということではなくて、小さい強みというのもあると思いますから、小さいということで特色のある教育がなされれば渋川市全体の教育に厚みが出ると言いましょうか、市外からも人が呼べるような渋川市の教育になればと思っております。

そういう中で、伊香保については小学校、中学校とありますので、特色ある教育の中に小中一貫校のようなことを検討に加えてみたらどうかと思うのですが、私からの提案ですが、小中一貫校か或いは義務教育学校制度もありますので、そういったことを通じて伊香保の学校が特色を持って、そしてそこで離れてはいますけれども学ば

高木市長	<p>せようと、選択をしようという子どもたちが増えてくれると、これは市内だけではなく市外からも増えてくれると。伊香保の人たちで子どもさんが市外の小中学校に通っている方もおられると思いますけれども、そういった子ども達が伊香保で学んで、あるいは市外からも来てくれるということになればいいのかなと思います。</p> <p>これは私からの提案ですので、またご意見をいただければと思います。</p>
------	--

5 その他

高木市長	<p>今日の予定されました議題は以上ですが、この他に何か提案がありましたらお願いいたします。</p> <p>よろしいでしょうか。</p> <p>では、以上で今日の総合教育会議は終了とさせていただきたいと思えます。事務局からは何かありますか。</p>
新政策課長	<p>事務局からは特にございません。</p>
高木市長	<p>それでは長時間にわたりまして、これからの渋川市の教育について色々なご意見を伺いましてありがとうございました。伺ったご意見を参考にさせていただきながら、日本一の教育都市・渋川を創っていきたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。</p>

6 閉会

新政策課長	<p>以上をもちまして、平成31年度第1回渋川市総合教育会議を閉会させていただきます。長時間にわたり、ありがとうございました。</p>
-------	---